地方若手外科医のひとり言

芦別市医師会
市立芦別病院　外科医長
柴　田　稔　人

市立芦別病院は富良野市と滝川市のちょうど中間に位置する人口約1万8千人の街だ。昨年度までは常勤医が13名いたこの地方の基幹病院だが、平成21年4月から内科の常勤医が5名から3名へと2名減り、計11名にて診療を行っている。私の属している外科は現在3名にて勤務している。

そんな医師数が減少した状況だが患者数も減ってくれるということではないため、内科医師の勤務負担は増し、手に負えない分を外科も協力することによってなんとか診療を維持している状況である。

だからといって医師をはじめとする医療者への報酬が増えるわけでもなければ、人員が補充されるわけでもない。医師7年目となる私だが、いまだに外科では一番下っ端である。ちなみに外科医の後輩がついたことはこの7年間1度もない。政治の世界では「医師増員対策をしている」と言われるのかもしれないが、現実の現場においてはなんの改善もなく、悪化していく一途なのである。

日本の現況について考えてみると、社会保障費よりも公共事業費の方が高い先進国は日本以外ほとんどない。ここ数年の間に社会保障費を減額している先進国は日本くらいのものである。医療改定の度に診療報酬は軒並み削減されており、医師の技術料を比較してみると日本はアメリカの半分以下、大きな差があるものだと5分の1以下である。地方は働く医師が減っているのだから、技術料報酬減は深刻な問題である。

われわれ医師も、もちろん医師である前に人間。歩に合わない仕事には不満が出てしかりなのである。地方から医師が減り仕事は増える。しかし減った分の仕事を肩代わりしてこなしても報酬は増えない。このような現状が悪循環を招くことは言わずもがななのである。

千歳医師会の現状

北海道医報通信員
千歳医師会　理事
千歳佐藤整形外科医院　理事長
佐　藤　　貢

千歳医師会は、尾谷透会長のもと100名で構成しています。千歳市の人口は94,000人で、現在も増加している道内でも数少ない街です。医療機関は、病院6、有床診療所3、無床診療所30余です。無床診療所が圧倒的に多いのは最近の傾向でしょうか。私も開業してから23年目ですが、7年前に無床にせざるを得ませんでした。まだ整形外科医としてメスを握りたかったのですが、看護師不足や有床医療事情の改悪などが理由です。

千歳市は道内の標準的な中型の市と考え、現在われわれの医師会が抱えている諸問題も皆さんの医師会に合い通じることも多いと思います。そこで、私の独断と偏見で千歳医師会の現状を分析してみます。

1) 最大の問題は救急医療です。現在は辛うじて24時間365日カバーしていますが、崩壊寸前です。医師会役員、各医療機関、市役所と協議し頑張っていますが前途多難です。
2) 産科医不足です。年間約900件の出産の半数は、近郊の医療機関のお世話になっています。市民病院産科医が孤軍奮闘中ですが、新たに開業するとの噂もあり期待しています。
3) 医師会の組織力の弱体化です。総会や行事を開催しても会員の参加は少数です。今後さらに悪化するであろう医療環境に対応するには、組織力の強化が大切であると思います。

これらの諸問題の対策や解決策については、凡人の私にはいいアイデアが浮かばないのですが、司馬遼太郎の坂の上の雲をイメージしながら、一歩ずつ前進していきたいと思います。